

CLA journal



■特集／2013年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA賞）

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

目 次

特集：2013年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）

■最優秀賞	
【設計部門】	
第29回全国都市緑化フェア TOKYO メイン会場 （上野恩賜公園会場・井の頭恩賜公園会場）	2
■優秀賞	
【調査・計画部門】	
「桜源郷」桜川市景観まちづくりマスタープランおよびリーフレット	4
■特別賞	
【設計部門】	
相見駅前空間のランドスケープデザイン ～公園をはじめとした駅周辺都市施設のトータルランドスケープ～	6
【マネジメント部門】	
協働型管理運営による安全な富士山登山のための情報提供	8
■奨励賞	
【設計部門】	
柏崎市文化会館アルフォーレ 外構計画	10
【マネジメント部門】	
藤沢市ビオトープ管理者養成講座（上級編）運営における技術的支援	11
■受賞技術者プロフィール	12
■CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし	14

2020東京オリンピック招致に向けたランドスケープ提言 15

会員名簿／21
お知らせ／24
編集後記／24

表紙の Photo Story

表紙写真は、平成24年9月29日から30日間にわたり、東京都で開催された「第29回全国都市緑化フェア TOKYO」の上野恩賜公園（上側）と井の頭恩賜公園（下側）の会場である。緑化フェアのテーマ“緑の風がふきぬける東京”のもと、それぞれの会場の特色付けがなされた。

こうした立地特性を活用して個性化を図ることや、地元と親和した演出や多様な主体との連携については、今後の公園の活用方法や運営管理の方向性を示唆しているものと言え、来場者には、一過性のイベントというよりも新たな公園像として、親しみをもって受け止められたことであろう。（作品評より抜粋）



第29回全国都市緑化フェア TOKYO メイン会場 (上野恩賜公園会場・井の頭恩賜公園会場)

第29回全国都市緑化フェア TOKYO 会場設計業務

株式会社ブレック研究所・株式会社ヘッズ東京支店・株式会社ライフ計画事務所・株式会社グラック共同提案体
株式会社ブレック研究所 石垣良弘・棚瀬新一朗・石原聡子，株式会社ヘッズ東京支店 加藤 修・加藤茂男
株式会社ライフ計画事務所 村岡政子・金子隆行・加藤直人，株式会社グラック 北川明介・白井浩司・剣田和良

平成24年9月29日から30日間、1984年以来28年ぶりに東京で2回目となる全国都市緑化フェアが開催された。

当共同体は、「第29回全国都市緑化フェア TOKYO」メイン会場6会場のうち、上野恩賜公園会場・井の頭恩賜公園会場を中心とした会場設計を行った。

“緑の風がふきぬける東京”をテーマに、各会場の特性を活かして緑や花の美しさや楽しさを来場者に提供すると共に、緑の文化力や花・緑に関わる技術の継承発展への寄与に配慮しつつ、展示・出展、花壇修景

等の会場整備に関わる技術的な検討を行った。また、イベント会場としての機能を確保するため、会場運営・行催事・広報宣伝担当と調整を図り、基本設計・実施設計として取りまとめた。

□上野恩賜公園会場

ー「多様な文化と芸術の風」

多様な文化と芸術を育んできた上野、東日本の玄関口としての上野という「場所性」に焦点をあて、地球や自然への感謝の気持ちと、復興への祈りをテーマと



上野恩賜公園会場鳥瞰図



上野恩賜公園会場



上野恩賜公園会場



上野恩賜公園会場「七曜の庭」
地球や自然の恵みを体感する小庭園群



上野恩賜公園会場「下町の庭」
江戸東京の情緒あふれる賑わい空間として演出

作品概要

作品名：第29回全国都市緑化フェア TOKYO メイン会場（上野恩賜公園会場・井の頭恩賜公園会場）
 所在地：上野恩賜公園会場（東京都台東区）、井の頭恩賜公園会場（東京都武蔵野市・三鷹市）等
 発注：第29回全国都市緑化フェア TOKYO 実行委員会
 設計：第29回全国都市緑化フェア TOKYO 会場設計業務株式会社ブレイク研究所・株式会社ヘッズ東京支店・株式会社ライブ計画事務所・株式会社グラック共同提案体
 設計協力：株式会社クロスポイント（上野恩賜公園会場「農の庭」(浦井史郎 東京都市大学教授 監修) 担当)
 監理：第29回全国都市緑化フェア TOKYO 実行委員会(工事監督)
 第29回全国都市緑化フェア TOKYO 会場設計業務株式会社ブレイク研究所・株式会社ヘッズ東京支店・株式会社ライブ計画事務所・株式会社グラック共同提案体（工事監督補助、植栽監理、出展調整）
 施工：上野恩賜公園会場：野崎・田中建設共同企業体、アゴラ造園株式会社
 井の頭恩賜公園会場：加勢・緑建・第一建設共同企業体、保谷・桜井建設共同企業体
 設計期間：平成23年8月～平成24年3月
 施工期間：平成24年6月～平成24年12月
 規模：上野恩賜公園会場：約53.9ha、井の頭恩賜公園会場：約40.5ha
 主要施設：展示・出展施設、修景花壇、飲食・物販施設、休憩施設、管理施設

作品評

この作品は、平成24年9月29日から30日間にわたり、東京都で開催された「第29回全国都市緑化フェア TOKYO」のメイン会場6会場のうち、上野恩賜公園と井の頭恩賜公園の会場設計を行ったものである。

緑化フェアのテーマ“緑の風がふきぬける東京”のもと、各会場の特色付けがなされた。特に上野恩賜公園では、芸術文化の発信地や東北の玄関口としての立地を活かし、既存空間にとけ込んだアートや被災地東北への復興支援を打ち出した農の風景などが展開された。また、井の頭恩賜公園では、既存林に囲まれたロケーションを活かし、周辺住宅地のニーズをうまく取り込んだ、食とアートを楽しむライフスタイルを体験できるガーデンなどで構成された。

このように立地特性を活用して個性化を図り、地元と親和した演出や多様な主体との連携が特に評価され、総合的に見ても最も高い評価を得て最優秀賞となった。

本作品は、今後の公園の活用方法や運営管理の方向性を示唆しているものと言え、来場者には、一過性のイベントというよりも新たな公園像としての親しみをもって受け止められたことであろう。

した庭園等で会場を構成した。

噴水広場を核に様々な文化・芸術が集う「竹の台エリア」と江戸東京下町の風情が薫る「不忍池エリア」を中心に、それぞれのエリアの特徴を活かし、ダイナミックな花とみどりの造形による「驚き」と自然の恵みへの「再発見」を通じて、多くの人々の参加によるみどり豊かなまちづくりを提案した。

□井の頭恩賜公園会場

—「ふれあいとにぎわい、交流の風」

豊かな秋の武蔵野の景・吉祥寺という武蔵野の街を

代表する「場所性」に焦点をあて、武蔵野らしさ、豊かな秋の実りなどを五感で感じることが出来る会場とした。

都市緑化の様々な活動を行っている人々を巻き込み、繋がりながら、緑のムーブメントとして大きく機運を醸成していく拠点として、参加型のイベント会場づくりを行い、美しい花や緑のガーデン環境の中で様々な「幸せ体験」ができる、実りの秋の季節に相応しい「エディブル」をテーマとした、新しい都市緑化・新しい都市のライフスタイルを提案した。



井の頭恩賜公園会場「香・癒・実の庭」
 ガーデンショップ、カフェを併設し、香りや実のある植物を中心に構成したガーデン



井の頭恩賜公園会場「子供だけの庭」
 樹木や木材などの素材をテーマとした、様々な遊びを通じて学習できるガーデン



井の頭恩賜公園会場鳥瞰図

井の頭恩賜公園会場





「桜源郷」桜川市景観まちづくりマスタープラン およびリーフレット

株式会社東京ランドスケープ研究所 染森健一

景観まちづくりの認識と行動を促す

□「桜源郷」桜川市景観まちづくりマスタープラン
A4判 160頁
桜源郷への思い

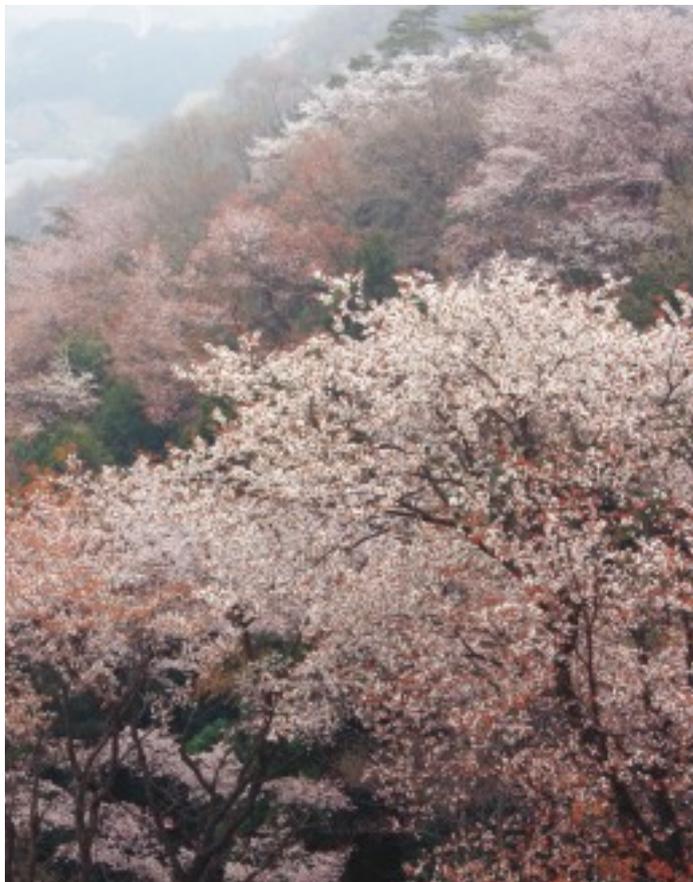
本市の山桜は中世のころから「東の吉野」と称され、1924（大正13）年には三好学による調査の功績もあって国の名勝指定を受けた。三好は貴重な山桜11種を選び「櫻花図譜」に掲載している。常陸風土記に、この地の豊かさが記録されているように、今でも、桜の時期はもちろんのこと、新緑・紅葉と四季折々に見せる自然・里山・農業風景は、日本の原風景そのものである。その美しいふるさとを大事にすることからはじめ

る景観まちづくりの重要性を「桜川市景観まちづくりマスタープラン」は説いている。

地域を知ることが第一目的とする

本書は、2010（平成22）年 茨城県桜川市の真壁地区の重要伝統的建造物群保存地区指定に合わせてつくられた。

一般の景観マスタープランであれば、伝統的建造物群の保存計画や周辺の施設をそれに合わせる基準づくりにつなげるプランをつくることにある。しかし、本市の大部分を自然地と耕作地が占め、建造物が集中する都市部はごく一部であるため、都市部を中心にしたプランでは市民の関心が高まりにくい。加えて、地域



山桜の群生地 高峯



里山と集落

作品概要

作品名：「桜源郷」桜川市景観まちづくりマスタープランおよびリーフレット
 対象地：茨城県桜川市全域 179.78 km²
 発注：茨城県桜川市建設部都市整備課
 事業目的：桜川市景観まちづくり計画の策定
 事業体制：株式会社 東京ランドスケープ研究所
 協働者等：FIT 環境デザイン研究所 中井川正道
 柴田広告事務所 柴田洋一
 事業期間：平成21年1月17日～平成22年3月31日

作品評

この作品は、茨城県桜川市における「桜川市景観計画」を市民との協働のもとに策定するために、景観まちづくりの基本的な考え方や方向性を示した基本書とその導入版として作成されたリーフレットである。特に基本書は、景観について市民に分かりやすく解説し、図や写真を多用した視覚的な景観読本として書籍風にとりまとめられている。
 すなわち、市民が景観を理解するとともに関心を抱くことを優先事項とし、自然、歴史、文化などの景観構成要素については、約一年を通じて撮影された美しい写真などを用いて編集されている。また、図やイラストも多用しながら独自の表現によって景観計画の内容をかみ砕いて解説するなど、その高いオリジナリティが評価された。
 特に、集落景観については、守るべき形が断面概念図等を用いて表現されており、市民が実際に集落景観を認識する際の手掛かりとなるなどの工夫も秀逸である。また、リーフレットについても、桜川市の景観構成について断面概念図などを用いて表現しており、小中学生でも十分理解できるようまとめられている。
 以上のように、基本書やリーフレットは市民講座や教育機関の教材としてはもちろん、これから景観に携わろうとする行政やコンサルタントにおいても十分に役立つ実用性の高い成果であると評価された。

経済が低調なため、市民が景観事業へすぐに取り組むことが難しい状況もあり、現時点では少しでも多くの人に地域景観の魅力を認識してもらうことが重要と考えた。

地域を読み行動を誘発する

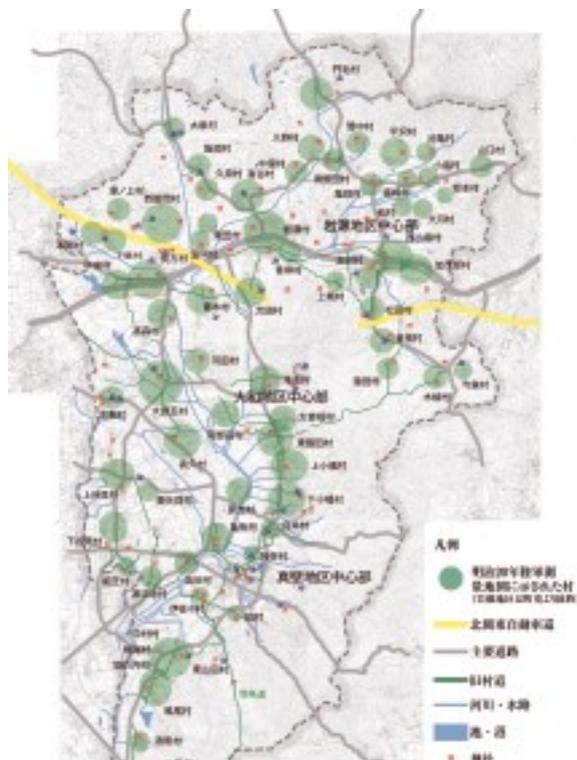
地域景観は、市民の生活の姿や産業に係わる様々な人工的な要素と自然との関係において成立していること、そして景観の良し悪しは自然景観を損ねる人工的要素が大きく影響していることなどをわかりやすくするために、多くの写真や図を掲載している。また、原風景として骨格的な景観を形成している河川と集落の関係を示し、現代社会において軽視されがちな農業景

観をクローズアップしている。そして、市民に景観づくりへの関心と参加の必要を説き、行政まかせではなく、主体的な行動と具体的な事業展開へ導くことを意図した内容を盛り込んだ。

□リーフレットA2判 両面

目で見て、ふるさとも感じる

桜川市景観まちづくりマスタープランへの導入版としてつくられたリーフレットの目的は、多くの市民に景観まちづくりへの関心や地域への誇り、愛着の芽生えを期待している。そのため、だれもが身近に感じてもらえるようにポスターとして掲示できるようなデザインとしている。



桜川水系と集落位置図



線状集落

島状集落

山麓集落

集落は桜川を軸に上流から房状に存在し、線状・島状・山麓の三つの集落形態をもつ

長屋門をもつ大きな農家が点在している



旧真壁町屋敷絵図
江戸時代後期
塚本清家蔵



真壁地区中心街

登録文化財
村井醸造

登録文化財
谷口家



登録文化財 潮田家 真壁祇園祭

真壁地区の重要伝統的建造物群保存地区は、中世城下町と近世陣屋町の遺構を残す町割（上図）が特徴で、見世蔵や土蔵が多く残っている

特別賞 賞 CLA 2013

相見駅前空間のランドスケープデザイン ～公園をはじめとした駅周辺都市施設のトータルランドスケープ～

株式会社オオバ 小林高浩・松岡史展・廣瀬虎男・伊原康敏・土川 豊・望月啓史・萩野一彦

2012年3月17日、JR東海道本線の岡崎・幸田間に新駅「相見駅」が開業した。地元の幸田町は、駅周辺の先導的都市環境形成計画「相見エコまちづくり計画」を策定し、住民・企業・行政が一体となった環境にやさしいまちづくりを目指している。幸田町と幸田相見特定土地区画整理組合は、活気ある商業施設・集合住宅を駅前の保留地に集積し、駅周辺の都市施設（公共施設）を一体的にデザインすることで、町の玄関口にふさわしい機能・環境・景観性に優れたまちづくりを先導する方針とした。

本作品は、町・組合・住民等との合意形成に務めながら、駅周辺都市施設の基本計画、基本・実施設計、施工監理、まちづくり支援活動までを一貫して取り組み、駅前にふさわしい高質な都市空間形成を目指した一連の業務によるものである。

□土地の記憶を未来のデザインに取り込む

計画地は、南東に位置する遠望峰山（とほねやま）を主峰とする山々に三方向を囲まれている、また一帯は明治時代の干拓前まで菱池（ひしいけ）と呼ばれる湖沼が広がっていた平坦な地形である。

新しいまちのデザインは、これら土地の持つ風土性を原点とし、さらに将来への継承を意図したものである。まちの核となる街区公園を駅東口に配置し、ここを中心に波紋が地域へと広がるような、また求心性を持つような「渦まきパターン」として駅周辺空間の一体化を図った。そして水盤に浮かぶトイレ、芝生広場とひな壇状の石積ベンチ、東・西駅前のモニュメントなどの主要な施設群をパターン上に配置して、機能性を併せ持つ景観要素とした。中でも、広場の中心部にあえて配置して、裏をつくらず地域の自然をイメージし



駅東口の全景、後ろの山並みが遠望峰山、手前はモニュメント「絆-EAST」



地域の自然要素（筆柿、ホタル）をイメージしたトイレ、上は夜景



トータルランドスケープの対象範囲



駅に向かってひな壇状に配置した芝生広場と石積ベンチ



デザイン会議による地元産石材の確認（西ロモニュメントの仮組み）

作品概要

作品名：相見駅前空間のランドスケープデザイン
～公園をはじめとした駅周辺都市施設のトータル
ランドスケープ～
所在地：愛知県額田郡幸田町菱池大字五反割
発注：幸田相見特定土地区画整理組合／愛知県幸田町
設計：株式会社オオバ
監理：株式会社オオバ
施工：株式会社石原組，株式会社加藤工業，和幸建設株式
会社，林建設株式会社
製作：有限会社ホワイトスペース（東口モニュメント），有
限会社額田石材（東口・西口モニュメント）
設計期間：2009年6月～2011年3月
施工期間：2009年12月～2012年3月
規模：約3.2 ha（街区公園面積0.18 ha）
主要施設：街区公園（水景広場，ひな壇状の芝生，トイレ，），
東口駅前広場（モニュメント「絆 EAST」，シェル
ター，駐車帯），西口駅前広場（モニュメント「絆
WEST」，駐車帯），幅30mのシンボル道路（ケヤキ並
木，植栽帯），パーク＆ライド駐車場，特殊道路

作品評

この作品は，事業主体が特定土地区画整理組合と地元自治体
からなる，JR 東海道本線に新たに整備される「相見駅」の駅前
空間のランドスケープ形成を，計画から施工まで一貫して設計
者が携わり実現したものである。
一般に，公共事業のランドスケープ空間形成の場合，設計者
が係わることのできるの設計段階までであり，ランドスケープ
空間の質を最終的に決定する施工段階に介入することは困難
である。本作品では，計画着手から竣工までの期間が限られて
いたこと，事業主体が複数であったことなどから，駅前空間の
ランドスケープを計画から施工まで一貫したプロセスのもとに
つくり上げることを発注者に提案し実現したものである。した
がって，駅前空間という都市の重要な空間デザインに関し，ラ
ンドスケープアーキテクトとしての役割を充分に果たしたことが
高く評価された。
しかしながら，ランドスケープコンセプトとして設定された
「借景の庭をつくる」ために，どのような方針のもとに設計を
進め，施工段階においては施工者などどのような調整を行って
コンセプトを実現したのかという点が応募作品資料からは読み取
りにくく特別賞という評価に留まった。この点が読み取りやす
く表現されていれば，より高い評価を得たであろう。

てデザインしたトイレは他に類を見ないものとなった。

借景の庭をつくる

新駅舎2階の駅東口展望窓からの眺望景には，背後
の山並みを取り込む「見切り・借景の手法」を用いて
いる。10年後にケヤキ並木が目標樹高（10m）に生長
することを見越して植栽デザインを行うことで，将来
は並木が見切りとなって住宅地が隠され，公園と駅前
広場・街路が一体の主景となる「借景の庭」のような
ランドスケープを実現*し，将来にわたって高質な景
観が維持されることを目指した。（※下図「借景の庭づくり
の空間構成イメージ」参照）

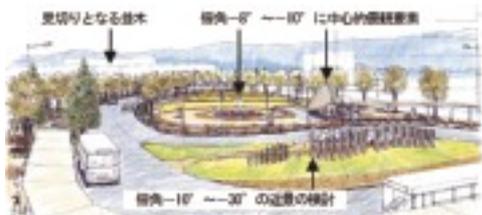
コミュニケーションをデザインする

基本計画段階から施工監理段階まで，関係者が協議
する「デザイン会議」を定期開催した。このプロセス

により目標設定と意思統一が図られ，厳しい日程の中
でも効果的な事業進捗が可能となった。

また，ワークショップを通じた「公園プランづくり」
「緑化ガイドライン作成」や，「緑化講習会」「植樹イ
ベント」「まち探検イベント」などの講習会・イベント
運営，さらには「イメージキャラクター導入」「地域参
加型維持管理活動の話し合い」など，様々なコミュニ
ティ形成支援策を継続的に実施し，まちづくりへの意
識醸成と新旧住民の融和を図っている。

2013年2月に行ったイベントの参加者アンケートで
は，回答者の8割近い人が「地域で公園を清掃する必
要性を感じた」と回答している。新旧住民のまちへの
愛着が深まるよう，引き続きランドスケープの視点か
らのアプローチでまちをデザインしていきたい。



借景の庭づくりの空間構成イメージ（駅東口）



「まち探検イベント」
駅前の公園を主会場として，区
域内5カ所の公園を巡るスタン
プラリーイベントを開催した



「えこたん」
環境と都市交通のイメージキャラ
クターをオリジナルデザインし，エコ
まちづくりのPRを行っている

◇ ランドスケープ基本設計図

◇ 個別検討

①公園トイレ
- 水景に大きな葉が浮かんでいるようなデザイン。
- 半透明のガラス屋根が雨漏れに対し耐性になる。

②水景施設
- うずの中心部は，素材となる直上噴水を配置。
この広場はイベント時のステージとしても利用可能。

③6号公園
- 特B5号，駅西側駅前広場，30m道路と一体の空間を形成する。その中，
- 芝生広場，水景施設と一体となった，30m道路，
- 第一はのりけのりけが明確な形で，公園全体が連続的なイメージ。公園の広場が「へた」で「山」
- 芝生広場は，30mとなるうずを見下ろしながら
- 広がる階段状の緑地（地形）をデザイン。
④駅前広場シェルター
- 郵便ポストとトイレと素材を合わせた駅前広場のシェルターデザイン。
⑤30m道路
- 将来10mに成長する，高さ8mのケヤキを歩道部中央に植栽。
- 植栽により自転車と歩行者を分離。
- 植栽の隅には休憩施設（ベンチ等）を配置。

◇ デザイン会議
- 地元・総合事務所・町・コンサルタントで構成するデザイン会議を通じて合意形成を図っている。

◇ スタディ模型
- 模型により駅舎の「ト」部分から，遠く山並みの山並み景観を「ト」に取り込んでいるかを確認。
- 駅前広場全体が一体の空間となっている様子。



協働型管理運営による安全な富士山登山のための情報提供

株式会社プレック研究所 池尻あき子・辻阪吟子・伴 邦教・梶田えりか

富士山では、夏のシーズン中、約30万人が山頂を目指し、登山者の増加とともに事故や遭難も増えており、登山者の中には登山が初めての人が6割を超え、若年層が多いことが富士山登山者の特徴となっています。山頂でのご来光のために夜間登山や0泊2日の無理な登山により、高山病で登頂を断念する人もいるほか、

装備が不備な人も多く、そうした登山者に対し、安全な富士山登山を普及することが課題となっています。

富士山登山者は、インターネット等から登山情報を得ていますが、それらに掲載されている情報は、記載の内容に差異がみられ、必要な情報が掲載されていないなど、登山者が必要とする情報が十分に提供されて

①『富士山登山者に提供すべき情報』の整理

1. 登山基本情報	
登山基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ●登山シーズン ●登山口・登山ルート ●各登山ルートの特徴・注意事項 ●必要な装備 ●歩き方・トレーニング
2. 安全情報	
安全情報	●最新気象情報
遭難・事故のリスク情報	<ul style="list-style-type: none"> ●気温差や天候急変の危険 ●遭難・事故の危険 ●落石事故の危険 ●夜間登山の危険
道迷い情報	●道迷いの注意喚起
高山病に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ●高山病とは ●高山病の症状 ●予防策 ●発症後の対応策
緊急時の対処方法	●緊急時の救助要請
3. 規制・マナー情報	
基本的なルールとマナー	<ul style="list-style-type: none"> ●自然公園法による国立公園の指定及び禁止行為 ●文化財保護法による特別史跡、名勝、天然記念物等の指定 ●富士山憲章に基づく「富士山カントリーコード」
マイカー規制情報	<ul style="list-style-type: none"> ●有料道路の規制 ●マイカー規制期間中の駐車場及びシャトルバスの運行
環境保全の取組情報	●環境配慮型トイレの利用方法及び協力金
4. 利便情報	
アクセス情報	<ul style="list-style-type: none"> ●登山口への交通アクセス ●交通情報
山小屋に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ●山小屋の位置、連絡先 ●山小屋の開設期間 ●利用上の注意事項
案内・問合先情報	●登山情報等の問合せ先
トイレ情報	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレの場所、混雑状況 ●環境配慮型トイレとチップ制
その他利便情報	<ul style="list-style-type: none"> ●山頂郵便局 ●飲食
5. 資源情報	
富士山情報	○標高、成立ち・地形地質、気象特性、歴史文化、国立公園、文化財指定
富士山の見どころ情報	○植生、動植物資源、溶岩洞穴・溶岩樹形、ご来光、陰富士、眺望、山頂付近の見どころ
周辺施設資源情報	○学習施設、五合目周辺でのガイドツアー、温泉、周辺の見どころ、等

登山者向け
情報提供

②登山者向けビデオ等の作成



協議会によりビデオ作成

③『富士山ガイドンス』の開催



協議会主催により開催
50名弱の旅行会社等が参加



ガイドンスでビデオを上映
登山ツアー等での活用を呼びかけ

旅行会社等
向け
情報提供

安全な富士山登山のための情報提供の流れ

作品概要

作品名：協働型管理運営体制による安全な富士山登山のための情報提供
 対象地：富士箱根伊豆国立公園富士山地域（静岡県・山梨県）
 発注：環境省関東地方環境事務所
 事業目的：国立公園として安全で味わい深い富士山登山を普及するため、富士山登山者に提供すべき情報を整理し、その情報を効果的な方法で提供する。
 実施体制：株式会社ブレック研究所
 計画検討・実施期間：2010年11月～2011年3月、2011年6月～2012年3月

作品評

この作品は、富士登山者が年間30万人にも達して未然に遭難事故を予防するための情報提供が強く求められている背景のもと、富士山を管理する多くの関係者が協働で取り組み、登山者に対し、適正かつ統一した情報の提供を目的に実施された業務である。
 選考過程では、多様な登山者ニーズへの柔軟な対応性や協働型管理運営体制の構築に関する具体的な説明不足等について指摘されたが、情報の整理と提供情報の提案、ガイダンスの実施、ビデオと音声ガイドの制作など、登山に係わる情報提供全般を網羅した幅広い技術力、様々な情報を伝えるための分かりやすい表現力などが高く評価された。
 特に“中高年登山”や“山ガール”などのブームの中で、登山の注意喚起に留まらず環境保全を呼びかけている点においてもCLA会員が先駆的に取り組んでいるという発信性の高い作品であることも評価され、特別賞の受賞となった。

いるとは言えない状況となっています。

そこで、環境省を含む富士山周辺の管理関係機関や自治体で構成する「富士山適正利用推進協議会」として必要な情報の統一を図り、安全な富士山登山を普及するために、まず『富士山登山者に提供すべき情報』の整理を行いました。この整理した情報を確実に登山者へ伝える方法として、登山者が乗車する登山口までのバス等の車内を利用することとし、ビデオや音声ガイドを作成して登山シーズン中登山バス等を運行するバス会社へ配布しました。

また、富士山登山では登山ツアーへの参加率が高いことから、旅行会社や出版社等を集め、富士山登山の

実態や『富士山登山者に提供すべき情報』の説明等を行う「富士山ガイダンス」を開催し、ビデオの配布も行ったところ、必要な情報の取得に役立ったとの評価を得、開催は成功したと認識しています。

このように、情報の整理に基づくビデオの作成とガイダンスの開催により、登山開始前の登山者に対しては一定程度の効果をあげることができたと思われまます。今後は登山道上や登山準備中の登山者にも確実に情報が伝わる方策を検討し、関係者の連携・協働による安全な富士山登山の普及を図っていくことが期待されます。



ビデオ『富士山へようこそ～安全登山のために～』の構成



柏崎市文化会館 アルフォーレ 外構計画

株式会社環境デザイン研究所 仙田 満, 町田潤哉

柏崎市文化会館アルフォーレは、市の第四次総合計画における市民の芸術文化活動の拠点として整備された多目的ホールである。建物を極力敷地北端に寄せて南側に広がりのある外構空間を確保し賑わいのある市民広場の創出を図った。近景の道路・駐車場を隠しつつ遠景の山並みを取り込む築山を設け、郷土種による植栽林と散策路、また建物に面して芝の段床を設けて劇場広場とし、正面の市民ラウンジと一体的な空間とした。市の後援の元、地元有志が企画、設計者がデザイン監修したメモリアルタイルを地元の親子イベントで作成・設置し、劇場広場に賑わいと親しみやすさが加わった。豪雪地という立地条件を考慮し雪・風をよけて文化会館エリアを回遊できる都市廊を整備した。

作品評

この作品は、柏崎市の玄関口である駅前において、中心市街地活性化の先導拠点であり、また、市民の交流促進と賑わいを創出する文化・交流施設ゾーンの中核施設として位置づけられた新市民会館の外構計画である。

このような状況下において、建築と外構の一体化がデザインとして工夫され、ランドスケープ空間を創出しているところが評価された。特に、景観に対する配慮、雪国の気象や特殊土壌といった地域性への配慮、ランドスケープの重要要素である植栽の工夫、また、これらハード面だけではなく、メモリアルタイルの設置に際してのソフト面での工夫などは、まさに市民の交流、賑わいの演出手法として高く評価された。

惜しむらくは、プレゼンテーションにおける説明が不十分な面があった。例えば、景観に対する配慮の考え方は理解できるが実際はどのように対応したか、また、植栽に関してもイメージ写真はあがるが、実際どのような方法がとられたかが十分に伝わらず、これらの表現方法次第ではより高い評価を得たであろう。

作品概要

作品名：柏崎市文化会館アルフォーレ 外構計画
所在地：新潟県柏崎市日石町
発注：柏崎市
設計：株式会社環境デザイン研究所
設計協力：ARUP JAPAN 及び株式会社ライティングプランナーズアソシエイツ
監理：株式会社環境デザイン研究所
施工：植木・阿部・東北特定共同企業体（建築外構工事）、東新環境保全株式会社（植栽工事）、植木組柏崎支店（駐車場整備工事）
設計期間：基本設計：平成21年3月～平成21年9月
実施設計：平成21年10月～平成22年5月
施工期間：平成22年8月～平成24年6月
規模：文化会館外構整備：6,600㎡、駐車場整備：17,400㎡
計510台、屋根付き回廊整備：280㎡ 合計24,000㎡
主要施設：野外劇場、都市廊、緑陰広場、散策路、メモリアルタイル



建物南面に十分な外構空間を確保し、なだらかな築山を設けてコナラ・ケヤキなどの郷土種による植栽を行い、隣接する駐車場や道路からのバッファゾーンを形成した。周囲に対しても劇場広場での音影響を抑えることができると共に緑豊かな景観を提供することができる。築山には散策路を確保することで劇場広場を囲む緑豊かな市民の憩いスペースとして利用することができる。



南面サッシュ解放時の市民ラウンジと劇場広場の一体感。遠景に黒姫山・米山を望む



劇場広場を彩るメモリアルタイルの共通テーマは名物「ぎおん柏崎まつりの花火」



都市廊一庇下空間や独立した屋根付回廊により雪・風をよけて敷地を回遊できる

奨励賞 2013

藤沢市ビオトープ 管理者養成講座(上級編) 運営における技術的支援

株式会社グラック 八色宏昌・北川明介・高橋 彩・並木 崇・枝吉茂種
アゴラ造園株式会社 石井匡志・香取 太
日本大学生物資源科学部 島田正文・長谷川功・
岩野秀俊・葉山嘉一・大澤啓志・間野伸宏

藤沢市では藤沢市ビオトープネットワーク基本計画を2007年に公表し、これを受けてビオトープの保全・再生・創出等に関わる人材養成を目的に藤沢市ビオトープ管理者養成講座を開催した。2009年度に初級講座、2010年度に中級講座が行われており、本講座はそれに続く上級講座である。特色は、①市民でも実践可能なビオトープの保全・再生・創出手法を開発して講座において実施したこと、②専門の実務者が実務実習を担当し、実践と同じ流れで講座を実施したこと、③講座の受講後に市民が主体となり管理等ができるようにワークショップ方式を導入したことである。これにより市民主体のビオトープの保全・再生・創出活動を支援した。

作品評

この作品は、ビオトープ管理者養成講座の運営に関して技術的支援を行った業務であり、2011年10月から2012年3月までの6カ月間に6回に及ぶ講座を開催した。

講座は過去2年間に初級、中級と段階的に開催されており、選考対象となる講座は、上級編講座としてビオトープづくりの実践を中心としたプログラム内容となっている。コンサル、施工業者、大学研究者のそれぞれが専門の立場から技術指導を行っており、多様な実務者による講座が企画・運営された。また、毎回の講座終了時には意識調査が実施され、その要望等を次回以降に反映するなどの工夫を通じて、より現実的な整備体験が提供された。その結果、受講者の満足度は高く、クライアントからも高い評価を得ている。今後、同様の取り組みは増加するものと思われ、市民を主体としたビオトープ整備活動促進への貢献が大いに期待される作品として評価された。

惜しむらくは応募作品資料にコラボレート企業や応募者等の役割に関する記述が少なく、その点においてコンサルテーションの内容などが十分に伝わらず、奨励賞に留まった。

作品概要

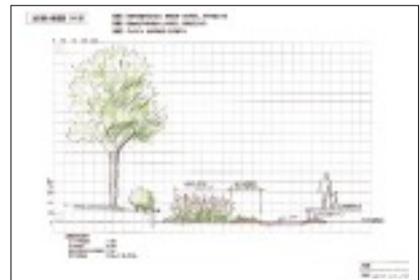
作品名：藤沢市ビオトープ管理者養成講座(上級編) 運営における技術的支援
業務対象：長久保公園の菖蒲池とハーブ見本園の一部(辻堂大平台2丁目)
面積規模：3.4ha(開園区域)
事業主体：藤沢市まちづくり推進部まちづくりみどり推進課
実施体制：講座プログラムの内容や実施方法、担当講師ならびに講座の運営等を中心に日本大学生物資源科学部生物環境科学研究センターが共催・支援し、株式会社グラック及びアゴラ造園株式会社が講座においてビオトープの調査・計画・測量・設計・施工実習および運営を担当した。
協力：日本大学生物資源科学部生物環境科学研究センター(講座共催(全体))、公益財団法人神奈川県公園協会(講座共催(2011年度))
業務目的：ワークショップ方式による計画、設計、整備などの実習を通して講習生の技術向上、講座受講後の管理等の市民参加の促進
業務期間：2011年6月～2012年3月(うち応募者が主に担当した期間は2011年10月～2012年3月(9月までは日本大学生物資源科学部生物環境科学研究センターならびに公益財団法人神奈川県公園協会が主体となり神奈川県立境川遊水地公園で実施))



簡易な測量手法を開発して実習を実施(菖蒲池)



断面図の雛形をもとに受講生が作図(ハーブ見本園)



受講生が断面図をもとに計画を検討(菖蒲池)



ビオトープ池の造成の施工を実施(ハーブ見本園)



ビオトープ整備の竣工記念撮影(菖蒲池)



ビオトープ整備の竣工記念撮影(ハーブ見本園)

石垣良弘 (いしがきよしひろ)

1988年武蔵工業大学工学部建築学科卒業。1989年㈱ブレック研究所入社。環境設計部部長。ランドスケープの計画・設計、文化財の保存活用に係る計画などに従事。技術士(建設部門:都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



棚瀬新一郎 (たなせしんいちろう)

1984年東京デザイン学院造園デザイン科卒業。1985年㈱ブレック研究所入社。環境設計部所属。主にランドスケープの設計・監理に従事。RCCM(造園部門)、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



石原聡子 (いしはらさとこ)

2006年兵庫県立淡路景観園芸学校景観園芸専門課程卒業。同年㈱ブレック研究所入社。環境設計部所属。主にランドスケープの計画・設計に従事。



加藤 修 (かとうおさむ)

1960年宮崎生まれ。千葉大学園芸学部造園学科卒業。㈱ヘッズ東京事務所代表。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。技術士(建設部門)。武蔵野美術大学講師。CLA黒ラブの会員。主な業務:国際花と緑の博覧会「政令指定都市のにわ」、静岡国際園芸博「ほほえみの庭」、全国都市緑化フェア宮崎、岡山、TOKYO(井の頭)会場計画。平城遷都1300年記念会場ランドスケープ。多摩桜プロジェクト委員。八王子観光産業振興会議委員。



加藤茂男 (かとうしげお)

1969年愛知県生まれ。千葉大学園芸学部造園学科卒業。㈱ヘッズ東京事務所副所長。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。技術士(建設部門)。主な業務:静岡国際園芸博「ほほえみの庭」、全国都市緑化フェア TOKYO(井の頭)会場計画。平城遷都1300年記念会場ランドスケープ。上海万博・上海民企連合館。



村岡政子 (むらおかまさこ)

1949年東京生まれ。1974年千葉大学大学院修了。同年㈱ライフ計画事務所入社。取締役設計部部長。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、技術士(建設部門・環境部門・総合技術監理部門)。CLA理事・関東支部長、(一社)環境情報科学センター理事、江東区都市景観審議会委員、調布市都市計画審議会委員など。



金子隆行 (かねこたかゆき)

1983年日本大学農獣医学部農学科卒業。同年㈱ライフ計画事務所入社。取締役業務部長。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、上級造園修景士。主な業界活動:日本造園学会関東支部幹事、その他委員会委員、CLA技術委員会副委員長、日本庭園協会神奈川県支部副委員長、全国1級造園施工管理技士の会副幹事長。



加藤直人 (かとうなおと)

1986年東京農業大学造園学科卒業。同年㈱ライフ計画事務所入社。環境管理課長。環境緑化樹木識別検定1級。



北川明介 (きたがわあきすけ)

1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。㈱グラック代表取締役。市街地内の既存緑空間の利活用や再生プロジェクトに多数携わっている。



剣田和良 (けんたかずよし)

埼玉県出身。1999年㈱グラック入社。美しい街並みに貢献し、人が気持ちいいと感じる空間づくりを目指す。主に公園や集合住宅の屋外空間を中心として計画・実施設計を行っている。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、一級造園・土木施工管理技士。



染森健一 (そめもりけんいち)

1957年大阪生まれ。多摩美術大学絵画科油画専攻、同大学院美術研究科を修了後、㈱東京ランドスケープ研究所に入社。多摩美大在学中に、国営昭和記念公園などの設計を手伝いながらランドスケープを学んだ。RCCM造園部門。芸術技士。



小林高浩 (こばやしたかひろ)

1986年3月信州大学農学部卒業。㈱飯沼コンサルタントを経て㈱オオバ名古屋支店勤務。公園や緑地空間を舞台に、調査・計画・設計から管理運営まで、幅広く「人も動物も集いたくなる居心地の良い場づくり」に取り組んでいる。代表作:愛・地球博記念公園「もりのゾーン」「あいちサトラボ」、戸田川緑地、東山植物園「桜の回廊」など。技術士、RLA、公園管理運営士。



松岡展展 (まつおかふみひろ)

2003年3月に北海道大学大学院農学研究科を卒業。その後、㈱飯沼コンサルタントに入社し、2009年より㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主に公園緑地の計画・設計、ワークショップを担当。近年は国営木曾三川公園の自然体験イベント「エコパラクラブ」にも参加している。趣味は野外での音楽鑑賞とビール。



廣瀬虎男 (ひろせとらお)

1987年三重大学農学部農業土木学科卒業。同年㈱オオバ名古屋支店に入社。入社から現在まで25年あまり区画整理一筋で計画・設計・施工監理・事業マネジメントに従事。技術士(都市及び地方計画)、土地区画整理士。最近ご無沙汰していますが、趣味は飲み会です。



伊原康敏 (いはらやすとし)

1962年名古屋生まれ。1986年3月岐阜大学工学部を卒業し、㈱オオバ入社。現在名古屋支店まちづくり計画部に所属。技術士(総合技術監理部門・建設部門・都市及び地方計画)。都市レベル又は地区レベルの土地利用に関するマスタープラン策定や規制誘導手法検討業務等に従事。趣味は読書(歴史小説等)、音楽鑑賞など。



土川 豊 (つちかわゆたか)

1969年千葉県千葉市生まれ。1993年千葉大学卒業。㈱オオバ入社、現在に至る。主な業務分野:土地区画整理事業や民間開発事業及び公園・道路・駅前広場・デベロップメント等の公共施設整備における計画・デザイン分野を横断的に手がける。近年は、国交省公園施設長寿命化計画策定指針(案)の策定などストックマネジメントにも積極的に携わる。技術士(建設部門)、一級造園施工管理技士、土地区画整理士。趣味は学生時代から続けているスカッシュ。



望月啓史 (もちづきけいし)

1975年東京都生まれ。1998年武蔵工業大学(現東京都大学)工学部土木工学科卒業。㈱オオバに勤務。主に、計画・デザイン分野の業務に従事。ここ数年は、土地区画整理事業に関連した計画・デザイン業務、駅前広場の計画・設計、景観計画などに従事。技術士(建設部門:都市及び地方計画、建設環境)。



萩野一彦 (はぎのかずひこ)

1960年東京生まれ。千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。㈱オオバまちづくり本部担当部長。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、博士(工学)、技術士(建設部門)。造園/ランドスケープを軸に、都市計画、土木、建築の領域に跨るランドプランニングを専門とする。代表作:湘南国際村、びゅうヴェルジェ安中榛名、OIST、パークシティ浜田山、相見駅前など。



池尻あき子 (いけじりあきこ)

1978年東京農業大学農学部造園学科卒業。同年㈱ブレック研究所に入社。緑化や公園緑地の調査・計画などに従事。技術士(総合技術監理:建設、建設部門:建設環境)、RLA。休日はまち歩きから登山まで、地の宝物・眺望探訪。



辻阪吟子 (つじさかぎんこ)

1981年3月京都大学文学研究科(心理学専攻)修士課程修了。同年4月㈱ブレック研究所入社。現在、同社取締役行政計画部長。景観評価、自然公園計画、自治体の環境基本計画等行政計画策定に従事。技術士(総合技術監理、環境部門、建設部門)。



伴 邦教 (ばんくにのり)

2005年3月神戸大学大学院総合人間科学研究科修了。2005年(株)ブレック研究所入社。現在、東北事務所研究員。主に自然環境調査、特に植物調査などに従事。趣味は登山。写真は岩木山の頂上にて。



梶田 えりか (かじたえりか)

兵庫県神戸市出身。2009年3月上智大学大学院地球環境学研究科修了。同年(株)ブレック研究所入社。現在、行政計画部研究員。主に環境基本計画をはじめとする行政計画等の立案に従事。休日は音楽仲間とトロンボーンを吹いています。



仙田 満 (せんだみつる)

環境建築家。1941年横浜市生まれ。東京工業大学建築学科卒業。菊竹清訓建築設計事務所を経て1968年環境デザイン研究所設立。都市、建築、造園、遊具を貫通する「こどものあそび環境のデザイン」という新しいデザイン分野を確立。代表作品：猿島公園、海南市わんぱく公園、富岩運河環水公園など。



町田潤哉 (まちだじゅんや)

1973年札幌市生まれ。東京農業大学造園学科卒業。マンチェスター大学都市計画科修了。2008年環境デザイン研究所入所。主な業務実績：柏崎市文化会館アルフォーレ外構設計監理、牛久市つつじが丘ふたばランド外構・遊具設計監理など。



八色宏昌 (やいろひろまさ)

福井市出身。2002年東京農工大学大学院卒業。大学では景観生態学を専攻。(株)グラック入社後は、生物多様性をテーマとして、藤沢市ビオトープネットワーク基本計画、ヌーヴェル赤羽台やフジクラ木場千年の森を担当。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。技術士 (建設/環境部門)。



高橋 彩 (たかはしあや)

2001年東京農業大学農学部造園学科卒業。同年(株)グラック入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。主に住宅団地や公園の設計に従事。人がふと思いつく楽しい思い出や、懐かしいことの背景がよい空間であるように、こころに残る空間をつくることを目指して日々格闘中です。



並木 崇 (なみきたかし)

2005年武蔵工業大学卒業。同年(株)グラック入社。主に公園緑地の計画設計や維持管理計画の策定を担当。近年は、植物園の再整備計画に従事。



枝吉茂種 (えだよししげたね)

世田谷に生まれ東京農業大学造園学科卒業。近代造園設計事務所に入社後、幾つかの設計事務所を経て、1978年エディ造園設計事務所 (現グラック) を設立し、現在は鶴沼海岸在住。「緑を増やし、暮らしやすい地球を」を目指し活動中。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。



石井匡志 (いしいまさし)

富山県生まれ。千葉大学園芸学部大学院修士課程修了後、アゴラ造園(株)入社。工事・管理・調査など担当し現在に至る。樹木医。現在、技術士挑戦中。



香取 太 (かとりふとし)

千葉県千葉市出身。1998年国土建設学院造園緑地工学科卒業。同年4月アゴラ造園(株)入社。以来、現場代理人として緑地管理業務を主体に、公園工事、マンション外構植栽工事などに従事。趣味は、魚釣り、家庭菜園。



島田正文 (しまだまさふみ)

千葉市出身。日本大学大学院修了。日本大学短期大学部教授、博士 (農学)、登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、技術士 (建設部門)。専門分野：緑地保全計画、景観計画、公園・レクリエーション計画ならびに関連デザイン等。ランドスケープ計画・設計論 (技報堂) 編著等。ランドスケープアーキテクト連盟副会長等。



岩野秀俊 (いわのひでとし)

日本大学生物資源科学部教授、農学博士。専門分野：応用昆虫学。著書：「日本の昆虫の衰亡と保護」など多数。「虫屋」と称する虫好きで、人付き合いよりも虫付き合いを好む傾向がある。そのため、必然的にフィールドにバッタのように飛び出すことになる。人間が野外の昆虫と共存共栄できる環境が理想郷かもと考えている。



大澤啓志 (おおさわさとし)

日本大学生物資源科学部准教授、博士 (農学)。専門分野：景観生態学・緑地計画学。



間野伸宏 (まののぶひろ)

東京生まれ、小学校3年生の時に筑波の麓へ。生物と戯れる日々を過ごす。日本大学農獣医学部 (現生物資源科学部) に進学。大学院ではウナギの皮膚の研究に取り組み、同大学で博士課程を修了。水産庁中央水産研究所で3年間過ごした後、日本大学。養殖場、水族館、天然河川を対象とした魚病研究に取り組んでいる。





CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 賞選考委員長 島田 正文

CLA 賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが、会員の行ったプロの仕事を自ら真摯に評価し、優秀なものを選定するとともにランドスケープコンサルタント業務における品質保証の一端を担うというシステムに特徴があります。

本年は「設計」、「調査・計画」「マネジメント」の3つの部門に、9つの会社やグループから計10点の応募がありましたが、例年に比べて約2/3の応募数に留まりました。

この内、設計部門への応募作品では、緑化フェア会場や駅前広場、公共施設の外構や公園整備、既存団地のリニューアルなど、多種多様なプロジェクトでの力作が目立ちました。調査・計画部門では景観計画と歴史的遺構の保全計画、マネジメント部門では、登山者のための情報提供や市民参加によるピオトープ整備活動など、これらも全く異なるフィールドを対象にプロジェクトの内容も多岐にわたるものでした。従来の公園空間を対象としたプロジェクトだけでなく、まちづくりから景観づくりまで非常に多岐に及ぶ空間を対象とした応募が見られました。このようにランドスケープ業務の領域が多方面に拡大していくことは今後とも大変期待されることです。

さて、CLA 賞は、周知の通り応募された作品の応募資料によって選考・評価する仕組みとなっています。このため、原則的に現地確認は行わないため、応募資料のプレゼンテーションが選考にあたって非常に重要な要因となるわけです。したがって、各作品のプレゼンテーションは、非常に重要な役割を担っています。既述のように、プロがプロの作品や業務内容を応募資料によって評価することから、当然応募資料は厳しい目に晒されます。応募資料が単なる写真や図版の寄せ集めのような場合は、当然評価は低く入選に至らない一方で、作品や業務内容充実はもとより、そのコンセプトやプロセスに関する事項が丁寧に表現されている作品には高い評価が与えられたのは例年と同様でした。

伝えるべき情報を取捨選択し、ストーリーを組み立て、効果的な表現を施してプレゼンテーションする能力は、ランドスケープコンサルタントにとって非常に重要な能力で

あるはずですが。CLA 賞が単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントとしての持続的な品質保証やCPD 制度による技術力向上に繋がる仕組みとして、会員企業や技術者に CLA 賞の認識がより明確化されることにより、CLA 賞が有する本来の目的や意義が十分発揮されるものと考えます。

会員企業や技術者間においては CLA 賞の目的や意義、役割を十分理解され、より一層の技術研鑽とともに積極的な応募を期待しつつ、選考概要の報告に代えさせて戴きます。

■ 作品の応募と選考結果

作品の応募状況は以下のとおりで、応募作品総数は10作品と例年の約2/3に留まりました。選考結果は、最優秀賞：1点、優秀賞：1点、特別賞：2点、奨励賞：2点となりました。

部 門	応募点数	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設 計	6 点	1 点	該当なし	1 点	1 点
調査・計画	2 点	該当なし	1 点	該当なし	該当なし
マネジメント	2 点	該当なし	該当なし	1 点	1 点
計	10点	1 点	1 点	2 点	2 点

■ 選考委員会

選考委員会は、CLA 技術委員会メンバーを中心に、島田先生をはじめとする理事にも参加いただき、客観性を持った人選といたしました。選考委員会の名簿は以下のとおりです。

- 委員長 島田正文 (理事/日本大学短期大学部生物資源学科)
- 副委員長 川尻幸由 (理事/㈱エイト日本技術開発)
- 委 員 石井ちはる (広報委員/㈱総合設計研究所)
- 〃 金子隆行 (技術委員/㈱ライフ計画事務所)
- 〃 鎌田正典 (技術委員/㈱都市計画研究所)
- 〃 福留正雄 (技術委員/㈱ヘッズ)
- 〃 藤巻司郎 (理事/藤造園建設㈱)

※肩書は選考委員会開催当時

2020東京オリンピック招致に向けた ランドスケープ提言

東京オリンピック招致に向けたランドスケープ提言委員会 委員 内藤英四郎

1. 提案の趣旨

東京都は、「東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会」を組織し、2020年の招致に向けて、招致活動を活発に展開しています。

オリンピックは単なる国際的なスポーツイベントではなく、1964年の東京オリンピックがその後の東京の姿を大きく変えたように、都市のあり方や人々の生活環境を変化させる大きな力を持っています。

最新のオリンピック憲章（2011年7月から有効）では、IOCの使命と役割として、「環境問題に関心を持ち、啓発・実践を通してその責任を果たすこと」、「オリンピック競技大会のよい遺産を、開催国と開催都市に残すこと」、「スポーツを文化や教育と融合させること」が掲げられています。

また、これに関連して、東京都はオリンピック開催年の東京の姿とその実現プログラムを示した「2020年の東京」を策定しました。その前文には、オリンピック・パラリンピック開催により、日本の首都であり、世界を代表する大都市である東京を21世紀にふさわしい都市へと進化させ、東日本大震災の痛手から立ち上がらんとする日本の再生を牽引し、都市のあるべき姿を世界に示す決意が述べられています。

この提案書は、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部が、緑とオープンスペースの環境づくりの専門家としての立場からオリンピック憲章の精神や東京都の都市づくりの方向性をふまえ、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致支援活動の一環として、緑の都市づくりと会場建設に関する考え方をまとめたものです。本提案の具体化とランドスケープ専門家の積極的な活用を関係各位に強く要望いたします。

2. 取組みの考え方

提言書では、緑の都市づくりと会場建設の基本的考え方を、「安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京を世界にアピールする花・水・緑の回廊構想」としてまとめています。

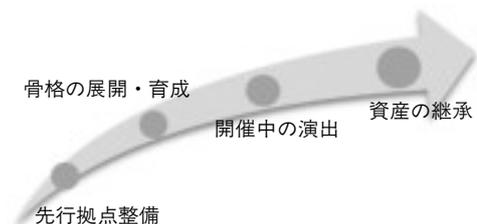
(1)「花笑み」のもてなし

2020東京オリンピックのロゴマークは、花びらが世界をつなぐように大きな輪を形成しています。このロゴマークから連想される、咲いた花のような華やかな笑顔を表す「花笑みのもてなし」をキーワードとし、「防災・環境・健康」の3つのテーマの緑が相互に関連しあい、世界の人々が交流する活力に満ちた緑の都市づくりに取組みます。



(2)多様な主体の連携・協働による緑の整備・創出・継承

緑の都市づくりでは、基盤整備からオリンピック開催中の演出、閉会後の緑の資産の継承まで、行政・企業・NPO・都民等の多様な主体が役割を分担し、連携・協働していくことが必要です。こうした連携・協働の考え方に沿った緑の都市づくりに取組みます。



(3)緑の環境の点～線～面への展開

緑の環境づくりでは、点的な緑の整備・確保から線的な緑の創出によるネットワーク形成を図り、さらには緑の環境の面的広がりにつなげていくことが必要です。こうした展開に沿った形での段階的な緑の都市づくりに取組みます。

3. 花・水・緑の回廊構想での提案内容

提案—1 東京の安全を支える緑・オープンスペースのネットワーク形成

(1) 点的対応 (拠点空間確保)

① ゼロメートル地帯住民の避難場所確保

- ・臨海部や荒川・江戸川・隅田川沿いのゼロメートル地帯を対象に、首都直下型地震による津波(想定高3m)や豪雨時荒川の氾濫(浸水深2~5m)を想定した1~数ヘクタール規模の避難場所となる立体公園を整備する。
- ・立体公園は、避難場所として指定されている公共・民間施設などとの一体的整備を図ることで、より広がりのある避難スペースを確保する。

② 広域避難・復興拠点の形成

- ・東京都地域防災計画で避難場所に指定されている場所のうち、敷地規模が大きく広域からの避難場所に適した場所を、大規模災害に係る区の行政枠を超えた広域避難・復興拠点として位置づけ、防災公園の整備などを行って拠点機能を高める。
- ・現在、避難場所に指定されている大規模な公園緑地については、その防災機能をより高める。

(2) 線的対応 (ネットワーク形成)

① 安全に避難できる空間確保

- ・避難場所となる公園緑地や広域避難・復興拠点と結ぶ形で、街区から広域までの生活空間レベルに応じた安全に避難できる歩行者路・緑道網を整備する。
- ・広域的な歩行者路については、既存の広幅員歩道を持つ道路や緑道、「自転車走行空間」などを結ぶ形で連続性を確保し、避難歩行者のネットワーク形成を図る。

② 市街地の延焼防止

- ・区内の主要道路沿いや河川沿いなどを対象に、建築物の耐震・不燃化と併せた連続性のある植栽地を創出し、道路や河川空間と一体となって市街地の延焼を防止する植栽帯を形成する。
- ・現在、良好な街路樹が形成されている道路については、延焼防止機能の向上につながる補植や大径木の保全・再生を推進する。

(3) 面的対応 (構造改善)

① 木造住宅密集地の安全性の向上

- ・木造建築物が密集し防災上の危険性が高い市街地地域について、防災公園の整備と道路拡幅・建築物の耐震化等を一体的に推進する防災公園街区事業を展開し、まちの安全性を高める。

② 緑・オープンスペースが凝集する首都東京の広域防災コアエリアの形成

- ・台地面を形成し大規模な公園緑地や公共・民間のオープンスペースが凝集するJR山手線内一帯の地域を、被害の大規模化を構造的に防止する首都東京の広域防災コアエリアとして位置づける。
- ・このエリア内では、避難場所となる公園緑地の整備や広がりのあるオープンスペースの確保、公開空地の連続化による避難スペースの充実、延焼防止機能の高い街路樹網の形成などを行って、さらなる防災機能の向上を図る。



図1 総合危険度ランク

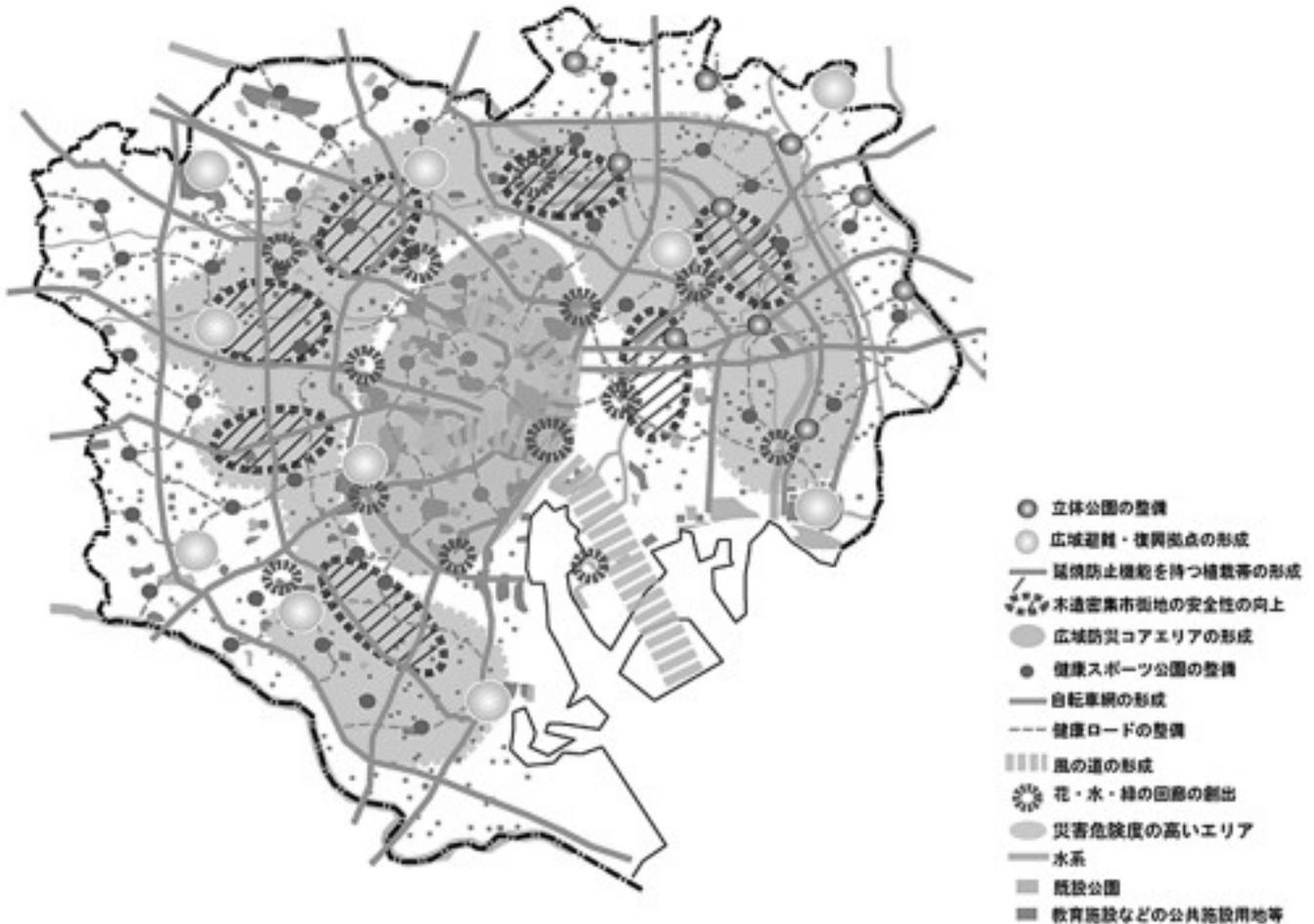


図2 水と緑のネットワーク形成による災害に強い都市づくり

提案—2 自然と共生し、美しい首都の景観を創る花・水・緑の回廊形成

(1) 点的対応 (多様なポイントのエコアップ)

① 生き物とふれあえる環境づくり

- ・河川、公園、街路樹、公共・民間施設などを対象に身近な生き物の生息環境に配慮した緑化やビオトープづくりなどを通して、街中でも多様な生き物とのふれあいが楽しめる環境を創出する。(都心での雑木林の道づくりや水辺環境づくり等)
- ・都市の生物多様性を表す指標として、生物多様性条約締結国会議が推奨している「都市の生物多様性指標 (CIB)」(在来の生物多様性、生態系サービス、生物多様性の統治と管理の3つの要素について自己評価するしくみ)の東京版を策定し、これに基づく生物多様性確保の取り組みを推進する。

(2) 線적対応 (エコロジカルネットワーク形成)

① 多様な生物の生息・移動環境の形成

- ・海浜、河川、公園、街路樹、都市内や都市周辺の保全樹林地などでの生物の生息・生育環境の改善を図り、エコ

ロジカル・ネットワークを形成する。

② 都心を貫く「風の道」の形成

- ・主要なオリンピック施設が配置される東京湾臨海部と神宮外苑・国立競技場周辺を結ぶ地域を対象に、街路樹・河川・拠点公園緑地・公共や民有地の緑化空間等からなる緑の軸を創出し、都心部のヒートアイランド化を緩和する「風の道」を形成する。
- ・「風の道」はタイムステージを定めて成長させていくものとし、街路樹の整備や公共・民有地の緑化から始めて、拠点公園緑地の拡大、高速道路の地下化等に合わせた緑道整備などに拡大させていく。



図3 風の道の形成

(3)面的対応 (美しく潤い豊かな都市景観の形成)

①まちの特性を活かした景観演出

・23区内の臨海部、官庁街や主要なビジネス街・商業地などを対象に、まちの特性・資源を活かした花・水・緑の回廊を創出することで、美しい都市景観を創り、都市観光の発展に寄与する。

- ・丸の内ビジネス街での企業と連携した花回廊づくり
- ・臨海部での水景を楽しむ水辺回廊づくり
- ・下町地域での運河・水路の再生等による水辺回廊づくり
- ・渋谷・原宿等でのファッション産業と連携した花回廊づくり等

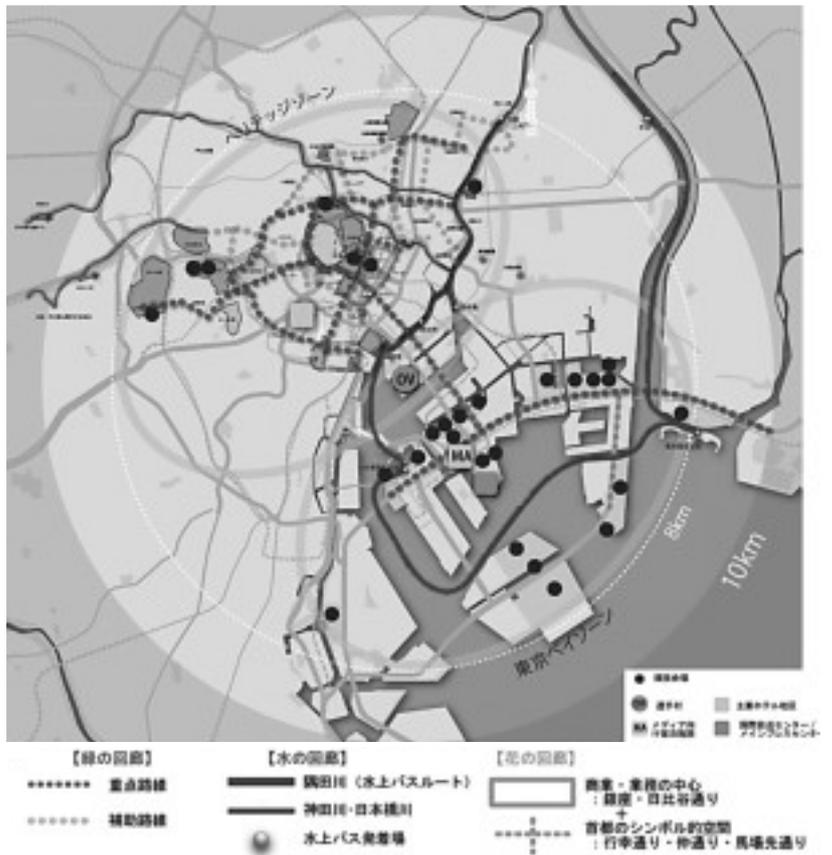


図4 美しく潤い豊かな都市景観の形成

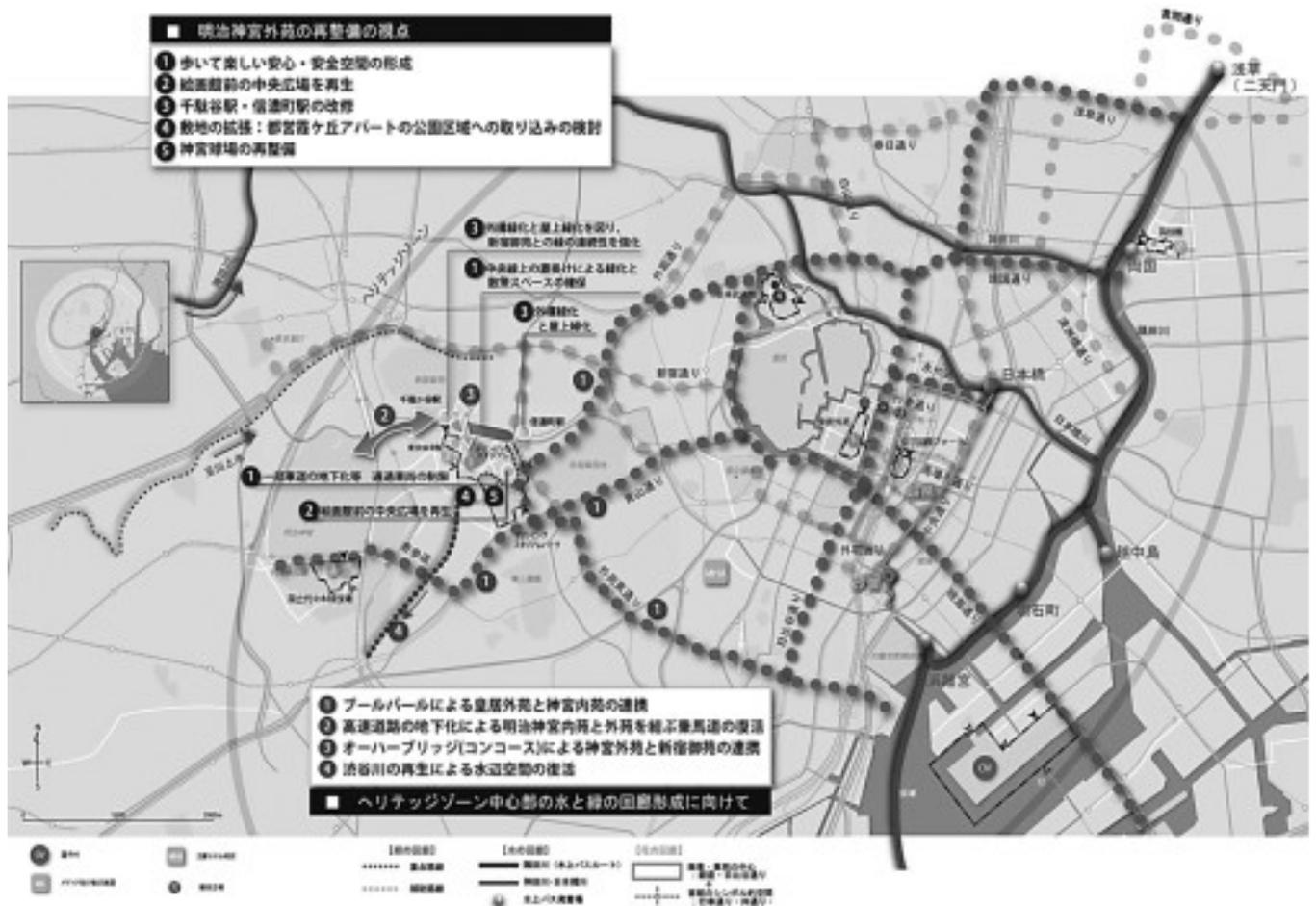


図5 ヘルテッジゾーンの水と緑の回廊形成

提案—3 都民の健康生活に寄与する緑・オープンスペースのネットワーク形成

(1) 点的対応 (活動拠点の確保)

① 健康スポーツ公園の整備

- ・ 今後の都市公園整備において、従来の競技施設主体型の運動公園ではなく、障害者を含む誰もが、いつでも楽しみながら健康運動を続けられる「健康スポーツ公園」を計画的に整備する。
- ・ 健康スポーツ公園では、健康運動指導士の指導や健康体力チェックなどが受けられ、「安全・効果・楽しい」の機能が満たされる公園づくりを目指す。
- ・ 健康スポーツ公園の整備では、学校跡地の活用なども積極的に検討する。

② 地域スポーツクラブの活動の場の確保

- ・ 急増する地域スポーツクラブ (少年サッカーチーム等を含む) の活動の場となる公園・オープンスペースを確保し、子供たちに多様なスポーツ活動の機会と指導が受けられる場を提供する。
- ・ スポーツ活動の場の確保では、公園以外にも統廃合によ

る学校跡地や建築物の屋上空間、未利用地の活用などを検討する。

(2) 線的対応 (生活を楽しく快適で便利なレクリエーションネットワークの形成)

① 自転車網の整備

- ・ 「東京都自転車走行空間整備推進計画」に基づく自転車レーンの整備を推進し、各オリンピック会場と連結し、都内及び都下の市や隣接都県ともつながる自転車網の形成を図る。
- ・ 中長期的には、道路の構造的分離による自転車歩行者空間の設置ではなく、災害時には安全な避難路としても機能する、独立した自転車走行専用空間網の形成を図る。

② 健康ロードの整備

- ・ 皇居一周コースに代表される、東京の歴史文化資源・景観資源等と結びついたウォーキング・ジョギングコースを「都民健康ロード」として位置づけ、都内各地域に設定する。

〔臨海部お台場コース、荒川沿川コース、スカイツリーコース等〕

・上記の健康ロードとは別に、健康スポーツ公園や既存公園・学校等を繋ぐ形で、地域住民が身近な場所でウォーキングやジョギングを楽しめる「身近な健康ロード」を設定する。

(3)面的対応（地域への浸透）

①東京オリンピックの遺産となる大会競技施設の保存と活用

・東京オリンピックの主会場となる東京湾臨海部と神宮外苑・国立競技場周辺のスポーツ施設については、オリンピック遺産として保存するとともに、緑の環境づくりや

関連する施設の整備を行って、日本のスポーツ文化・教育の拠点とする。

・世界レベルのスポーツ拠点にふさわしい施設とともに、将来の展開に柔軟に対応できる環境を整備する。

②世代・地域を越えたふれあいの場への展開

・オリンピック誘致を契機に都民・国民のスポーツへの参加を拡大し、都市の暮らしの中に多様な形でスポーツが根付く環境を整える。

・スポーツ基本法の施行（平成23年8月）を踏まえた日常生活の中でスポーツを「する・見る・支える」コミュニケーションが誘発される仕組み施設が計画的に整備されたまちづくり・地域づくりを展開する。

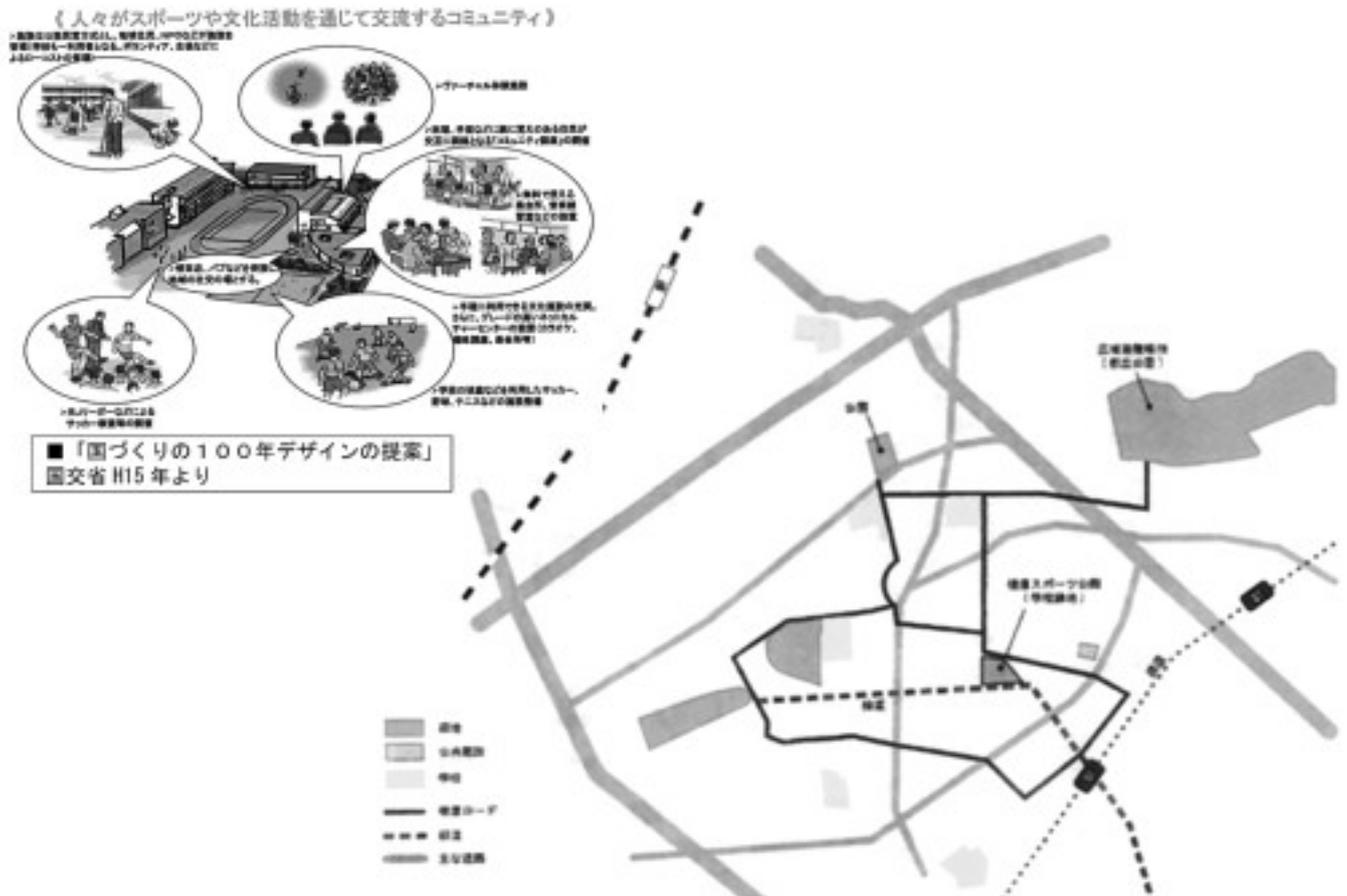


図6 身近な健康スポーツ，身近な健康ロードの展開イメージ

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

平成25年4月現在

◎：会長 ○：副会長 ◇：常任理事

正会員（五十音順）						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇大杉 哲 哉	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡 D ビル	092-482-8021	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	趙 賢 一	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	細谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
朝日航洋(株)	03-3522-7161	八木 鋼 治	136-0082	江東区新木場4-7-41	03-3522-7162	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	○川尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株)LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	◇萩野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア 環境設計(株)	03-5209-3691 06-6261-2144	田中行 雄 井上 芳 治	101-0041 541-0056	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル 大阪市中央区久太郎町1-4-2	03-5209-3696 06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬 悦 子	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤 文 昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	宇戸 陸 雄	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鎌屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)グラック	03-3249-3010	◎枝 吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観設計・東京	03-5435-1170	都田 徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909	
(株)景観プランニング	028-650-3030	石松 良 介	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692	
(株)創建	052-682-3848	丸山 昇	456-0018	名古屋市熱田区新尾頭1-10-1	052-682-3015	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	濱口 和 雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NS ビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
創和エクステリヤ(株)	045-662-8028	風間 伸 造	231-0002	横浜市中区海岸通4-23 マリンビル	045-662-8664	
第一復建(株)	095-557-1300	畠山 美 久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110	
大日本コンサルタント(株)	048-988-8114	伝谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	048-988-8184	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	金清 典 広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	◇吉田 勇 次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540	
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5919-2288	佐々木 亨	160-0022	新宿区新宿2-6-4 KN 新宿ビル	03-5919-2290	
(株)ドーコン	011-801-1535	◇大塚 英 典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536	
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波多野芳紀	540-0037	大阪市中央区内平野町1-3-7 ベルヴォア内平野	06-6946-9747	
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蛸殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924	
(株)ナカタ空間企画	06-6930-4890	中田 政 廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896	
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374	
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246	
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	星野 嘉 郎	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714	
(株)ニュージェック	06-6374-4032	堀内 康 介	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147	
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349	

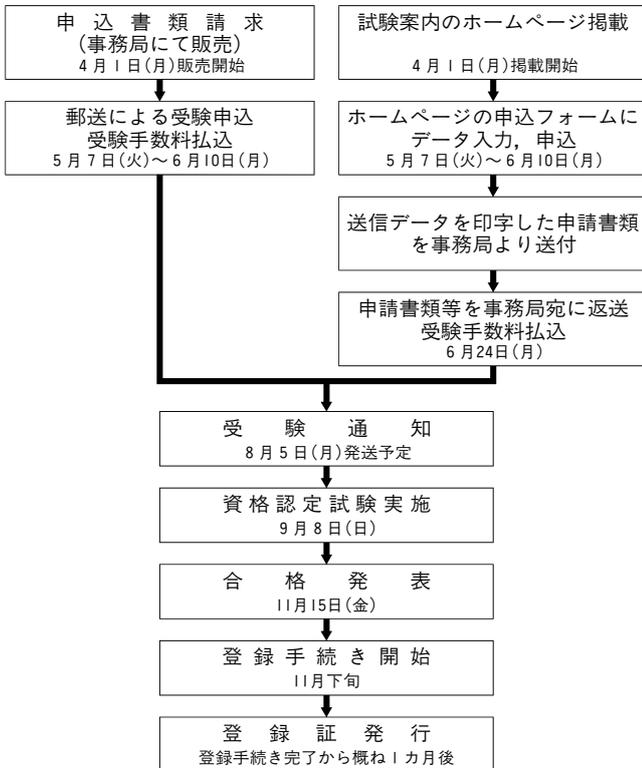
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	岩 渕 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計(株)	082-506-1853	來 山 尚 義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	○前澤 洋一	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◇中西 広樹	530-0022	大阪市北区浪花町12-24	06-6373-9370
北海道造園設計(株)	011-758-2261	及 川 渉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
(株)ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳 丸 秀 夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015
(株)三菱地所設計	03-3287-5750	河 合 康 之	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
(株)緑設計	0188-62-4263	◇板垣 清美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	018-862-4273
(株)緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
(株)森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤 内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
(株)UR リンケージ	03-6214-5700	石 田 晶	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
(株)ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇村岡 政子	136-0071	江東区亀戸6-58-12	03-5626-4740
(株)LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青 木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
(株)ランズ計画研究所	045-322-0581	川 島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
(株)リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
(株)緑景	06-6763-7167	瀬 川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
準会員 (五十音順)					
(有)エコシビルデザイン	03-5362-3701	上 村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
(株)エコル	03-5791-2901	庄 司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
(株)環境緑地研究所	011-221-4101	小 川 興 司	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
(株)現代ランドスケープ	06-6203-1270	西 辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
(株)シビテック	011-816-3001	三 浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
(株)セット設計事務所	042-324-0724	池田与志雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
グイシン設計(株)	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
(株)塚原緑地研究所	043-279-8005	塚 原 道 夫	261-0011	千葉市美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
(株)辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻 本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
(株)都市ランドスケープ	03-5269-8982	内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-6685-8712
(株)都市・景観設計	06-6228-3388	奥 村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
(株)緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
賛助会員 (五十音順)					
アゴラ造園(株)	03-3997-2108	荻 野 淳 司	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業(株)	0942-27-3231	福 山 茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設(株)	052-757-4030	石 黒 和 重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
(株)ウォーターデザイン	03-3431-8070	山 本 誠	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業(株)	052-352-1811	内 田 裕 郎	454-0825	名古屋市中区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C(株)	0956-48-8101	鎗流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
(株)岡部	0764-41-4651	竹 中 祐 利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
快工房(株)	03-3523-1056	時 岡 邦 男	104-0032	中央区八丁堀1-12-4	03-3523-1058
小岩金網(株)	03-5828-8828	島 倉 邦 彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
(株)コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
(株)ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小 山 幹 雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
(株)サカエ	0422-47-5981	栗 田 嘉 嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
(株)サトミ産業	0258-35-3005	佐 藤 勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
(株)三英 景観事業部	04-7153-3141	尾 山 弘 善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
(株)サンエス	042-564-1021	横 倉 登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
西武造園(株)	03-6863-3732	高 橋 尚 史	171-0022	豊島区南池袋2-30-11 池袋第一生命ビル	03-6863-3733
太陽工業(株) 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴 木 久 文	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ(株)	0849-55-1275	高 尾 典 秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
(株)中京スポーツ施設	0561-53-1111	大 内 田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業(株)	03-5703-1441	小 俣 智 裕	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
東亜道路工業(株)	03-3405-1813	田 中 秀 明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ(株)	03-5276-1101	星 野 弘 壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ(株)	06-6767-1110	木 田 幸 男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン(株)	0568-88-7080	池 上 英 雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ(株)	0543-35-6271	石 田 勝 若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
(株)中村製作所	047-330-1111	朝 倉 辰 夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
(株)ナベシマ	093-617-3039	鍋 島 雅 英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業(株)	03-3333-0210	結 城 健 治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設(株)	03-5337-2616	奥 裕 之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設(株)	03-3422-5331	竹 内 俊 裕	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園(株)	075-341-2246	山 田 昌 次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
(株)日比谷アメニス	03-3453-2402	奥 本 寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2417
(株)富士植木	03-3265-6731	成 家 岳	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
(株)丸山製作所	03-3637-4340	丸 山 智 正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
(株)みぞい	022-255-9770	溝 井 敏 男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
(株)ミロモックル	06-6390-0102	関 根 純 一	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133

2013年 登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験の実施について

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験」(以下「RLA 資格認定試験」) を下記のとおり実施します。

1. RLA 資格取得までの流れ



※部分受験 (再受験) の方については別途事務局より試験案内をさせていただきます

2. 試験実施日時

2013年9月8日(日) 9時00分~19時00分

3. 試験地

東京・大阪・福岡の3地区

※福岡会場は受験希望者数により設置されない場合がございます

4. 受験手数料

15,750円 (税込み)

5. 申込受付期間

2013年5月7日(火)~6月10日(月)

6. 受験資格

学歴により、以下のいずれかに該当する者。

学 歴	ランドスケープアーキテクチャに関する 必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大 学 卒 業 者	卒業後3年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれて いること	卒業後5年以上の 実務経験を有する者
短期大学卒業 高等専門学校 (5年制)卒業	卒業後5年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれて いること	卒業後7年以上の 実務経験を有する者
高 校 卒 業 者	卒業後10年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれて いること	卒業後12年以上の 実務経験を有する者
上 記 以 外 の 者	卒業後15年以上の実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれて いること	

- (注) 1 ランドスケープアーキテクチャに関する業務経験とは、ランドスケープアーキテクチャ事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。
2 ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は、正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。
3 指定学科とは、造園、緑地、農学、林学、環境、園芸、都市、地域、土木、建築系等のランドスケープアーキテクチャに関する学科をいいます (詳細は受験の手引をご参照ください)。

7. 試験の一部免除について

技術士を所有する方は、必要な書類を提出することにより、本資格認定試験の一部免除を受けることができます (詳細は受験の手引をご参照ください)。

8. 申込方法

申込方法は、左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要な事項を入力し申込んだ後、事務局より返送される申込用紙に署名、押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より申込用紙を購入し、必要事項を記入、署名、押印のうえ、郵便にて提出する方法です。

※インターネットが利用できる環境の方は①をお勧めいたします

9. 「申込用紙」の販売

1部600円で4月1日から下記事務局にて販売します。申込用紙の郵送をご希望の場合は、事務局までお問合せください。

<編集後記>

今号は、2013年のCLA賞受賞作品を紹介しました。受賞作品を見るたびに、「作品は世につれ世は作品につれ」……なんてことを感じるのは私だけでしょうか。

21世紀に変わる節目の2001年のCLA賞 (CLA ジャーナル No. 151) を今改めて見てみると、テーマ部門 (今はありませんが) のテーマとして「20世紀の記憶にふさわしいランドスケープ」(20世紀の記念碑となる業務、21世紀へのメッセージを発信する業務) が設定されています。テーマもきらきら

していますが、受賞作品もテーマにふさわしくきらきらと輝いています。表紙は色あせ気味の古いCLAジャーナルですが、夢や希望が詰まった号でした。この号から12年、私たちは一回り巡った時の中でどこまで輝き続けてこれたのでしょうか。

広報委員会では協会のホームページをこの春リニューアルしました。サイト構造とページ構造の整理を行い、皆さんが使いやすいものへと進化させたつもりです。CLA賞の扱いも、「主役級」へと格上げしました。こちら是非ご覧ください。

2013 No. 174

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日 ● 2013年5月24日

発行人 ● 枝吉茂種

編集 ● (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所 ● (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.or.jp



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>